

CINEMA PLACE

シネマプレイス～日曜の午後の映画会～

人間最後の最後までわからない。

エルネスト、78歳。ひとり暮らし。
視力も失い、このまま終えるはずの人生に、
ある日訪れた闖入者と一通の手紙……。

©CASA DE CINEMA DE PORTO ALEGRE 2019

AOS OLHOS DE

エルネスト ぶあいそうな手紙

2022.4.17 日

午後2時30分 - 4時40分

(開場：午後2時 上映時間：123分)

武蔵野プレイス4階フォーラム

定員▶50名 参加費▶無料

対象▶市内在住・在勤・在学の方(中学生以上)

申込▶4月1日(金)午前9時30分より

下記電話番号またはプレイス1階カウンターにて受付

※当日はプレイス1階カウンター受付のみ

カエターノ・ヴェローゾの名曲と鮮やかに練られた脚本。

ブラジルから届いた可笑しくて温かい愛のお話

【お問合せ】武蔵野プレイス図書館担当 TEL 0422-30-1900

※マスクの着用、手指の消毒、検温、参加者記録などにご協力をお願い致します。

2019 年 プンタデルエステ国際映画祭 観客賞・最優秀男優賞

2019 年 サンパウロ国際映画祭 批評家賞



ユーモアが思いもかけない感動の涙に変わる愛のお話。

ブラジル南部、ポルトアレグレの街。エルネストは 78 歳の独居老人。隣国ウルグアイからやってきて 46 年。頑固で融通がきかず、本が好きでうんちく好き。老境を迎え、ほとんど目が見えなくなった。もうこのまま人生は終わるだけ。そう思っていたある日、一通の手紙が届く。差出人はウルグアイ時代の友人の妻。エルネストは、偶然知り合ったブラジル娘のピアに手紙を読んでもらうように頼む。「手紙の読み書き」のため、一人暮らしのエルネストの部屋にピアが出入りするようになるが……それはエルネストの人生を変える始まりだった。ワケありのピア、唯一心を許せる隣人ハビエル、昔の友人の妻ルシア、折り合いの悪い息子のラミロ…。心を正直に伝えられないエルネストが最後に宛てた手紙の相手は？

監督：アナ・ルイーザ・アゼヴェード / 出演：ホルヘ・ボラーニ、ガブリエラ・ポエステルほか
2019 年 / ブラジル / 123 分 / カラー / ポルトガル語 (日本語字幕)

ご来場の際の注意事項



会場の椅子は座面が硬めです。
必要な方は**座布団・クッション**などをお持ちください。



座席により送風が強く当たる場所があります。
必要な方は**羽織れるもの**などをお持ちください。



自転車で来館される方は、駐輪場が大変混み合う場合もありますので、時間に余裕をもってお越しください。



新型コロナウイルス感染症対策のため、少人数で行います。
マスクの着用、手指の消毒、検温、参加者記録などにご協力ください。



シネマプレイスでは、
上映作品の**関連資料**
を**展示**しています。
上映終了後、
貸出もできます。
ぜひご覧ください。